

岡山大学

大学院教育学研究科

OKAYAMA UNIVERSITY

Graduate School of Education

- 専門職学位課程【教職大学院】(1専攻)

- ・教職実践専攻

- 修士課程(1専攻)

- ・教育科学専攻



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く

未来を拓く、世界を拓く挑戦者へ！ 2026



2026年度 大学院案内



大学院教育学研究科長

高瀬 淳

ごあいさつ

岡山大学大学院教育学研究科は、教育の営みを総合的に学修・研究することにより、多様な価値をもった個人や集団・社会が自らの幸福を追求していくこと(well-being)に貢献する大学院です。すべての人々が自らの幸福を追求するためには、身体的、精神的、そして社会的にも「満たされた状態」であることが必要であり、自己実現や社会改善に持続的に取り組んでいける状態をつくり出していくなければなりません。社会が急速に変化し、複雑化を増していく中で、そうした「満たされた状態」をつくり出していくための条件の一つが、教育であるといえます。

教育学研究科は、教職実践専攻(専門職学位課程)と教育科学専攻(修士課程)から構成されています。

教職実践専攻は、高度専門職業人としての教員を養成する教職大学院です。教員の仕事は、子供や授業・学校等に関する専門的な知識や経験を習得して、それを実践に適用すればよいものではありません。絶えず変化する子供や学校の実態を把握しながら、意味のある課題設定し、その解決に向けた教育実践を行います。さらに、同僚等とともに自分や他者の教育実践をデータや事象から一般化・理論化し、授業や指導の継続的な改善・変革につなげていくことが求められます。そのため、教職実践専攻では、研究的な視座から、よりよい教育実践に持続的に取り組む「アクション・リサーチャー」としての教員の資質・能力を身につけることが目指されています。

教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、教育の可能性を拓げることを追究する大学院です。教育は、公の性質を有する学校だけではなく、子供たちの健やかな育ちの基盤である家庭や人々の生活実態に即して構成される社会においても行われるもので、教育の営みは、家庭、学校及び社会といったあらゆる場所において、あらゆる機会に行われることができなければなりません。すべての人々が、従来からの専門領域・分野の枠を越えた知識や経験を相互に関連づけながら、実践的に思考・活用することを通じて、その成果を持続的に社会へ還元していくことが求められます。そのため、教育科学専攻では、個人や社会を取り巻く諸環境を理論的・実践的に分析し、そこに内在する本質的な教育課題を解決していく資質・能力を身につけることが目指されています。

令和7年度より、教職実践専攻には、特別支援学校教諭専修免許状(5領域)の取得課程、教員免許状を有しない方を対象とした3年制プログラム及び先取履修を活用した在学年限短縮プログラムが設けられました。また、教育科学専攻には、新しい教育データサイエンス学位プログラムが設置されました。ますますパワーアップした岡山大学大学院教育学研究科において、教育をテーマと一緒に学ぶことができるのを楽しみにしています。

岡山大学大学院教育学研究科について

岡山大学大学院教育学研究科の目的と教育の基本的目標

岡山大学大学院 教育学研究科

教育学研究科は、教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探求することにより、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育的実践力をもつ人材の育成を目的としています

専門職学位課程【教職大学院】

教職実践専攻(学生定員:45名)

修士課程

教育科学専攻(学生定員:37名)

教育の「未来」を拓く

〈アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）〉

専門職学位課程（教職大学院）は、学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育の現状について幅広い関心を持つ人、学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たすことを目指している現職教員を求めています。授与する学位は「教職修士（専門職）」です。

〈教育の基本的目標〉

教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探求することにより、学校リーダーおよび地域社会に貢献できる高度な教育的実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人が豊かな教育者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

〈特色〉

- ★ 10教科全ての専任教員を配置し、教科の専門的授業力育成機能をパワーアップ
- ★ 教育委員会・学校現場との強い連携
- ★ 岡山大学独自の実践力向上カリキュラム
- ★ 採用試験受験者への優遇措置

全国の自治体が、採用候補者名簿登載期間の延長（岡山県・岡山市場合は2年間延長）や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など、特例的な措置を講じています。

〈トピックス〉

- ★ 特別支援学校教諭専修免許状（5領域：視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者）の取得が可能。
- ★ 先取履修を活用した在学年限短縮プログラムで、岡山大学教育学部卒業後1年で修了が可能。
- ★ 教員免許状を持たない方を対象とした3年制のプログラムで小学校教諭及び中学校教諭、養護教諭の専修免許状を取得することが可能。



よりよい教育実践に持続的に取り組む
アクション・リサーチャーとしての教師

全教科・全学校種における中核的教員



詳しくはこちら



新たな教育の価値を創出し
国内外の課題解決を牽引する教育の先駆者

企業、公務員、学校教員、大学教員、研究者、学校事務職員、
社会教育関連業種、JICA・NGO職員、起業など新たな事業



詳しくはこちら

専門職学位課程【教職大学院】教職実践専攻

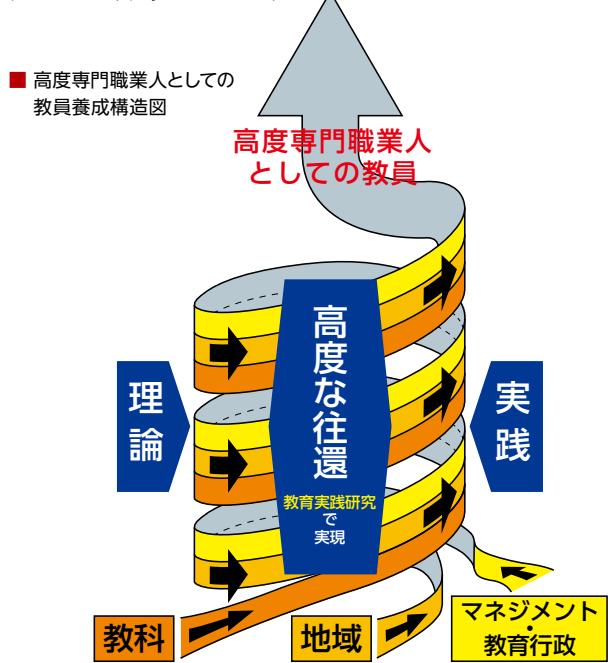
専門職学位課程【教職大学院】教職実践専攻の概要

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoujissen/>

↑ 詳しくはここをクリック

1. 岡山大学教職大学院が目指すこと

本教職大学院は、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、教育現場の課題について、理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる総合的・実践的な力量（高度教育実践力）を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としています。



2. 養成しようとする教員像

本教職大学院が養成する人材像は、「アクション・リサーチャーとしての教師」であり、教職生活全体を通じて継続的に高められていく職能発達の方向性を踏まえたものです。

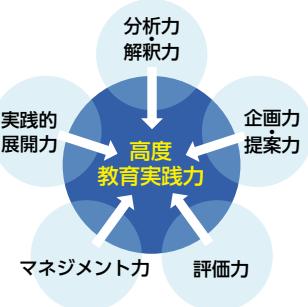
- 学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得した者が、さらに学習指導や学級経営、生徒指導などに関する高度で実践的な能力を身につけ、新しい授業を構想・展開し、提案することができる「初任期リーダー」として学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、若手教員を育成する能力、及び学年や学校・地域において学習指導や、学級経営・学年経営、生徒指導などに関する指導的役割を果たす能力を身につけ、「ミドルリーダー」として地域や学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、高い視座から、さまざまな教育事象を捉え直し、「学校リーダー」として指導的立場に立ち、新たな学校づくりや地域づくりに資すること。

◆ いま求められる資質・能力

職能発達の違いはありますが、「初任期リーダー」、「ミドルリーダー」、「学校リーダー」に求められる基礎・基本、資質・能力としては、以下のものを構想し、育成することを目指しています。

- ① **分析力・解釈力**：理論と実践との架橋・往還によって問題の解決の方向を見通すことのできる力
- ② **企画力・提案力**：具体的で高度な問題解決を企画し、提案することができる力
- ③ **実践的展開力**：企画・提案した問題解決策を実践できる高度な力
- ④ **評価力**：教育活動・実践を客観的に評価したり反省的に思考するなどの力
- ⑤ **マネジメント力**：教育活動や取り組みを学校内外で組織的・協働的に展開できる力

■ 高度教育実践力に求められる資質・能力



3. 課程修了要件とその内訳

教職大学院の修了要件単位総数は46単位です。

| 共通科目 | 選択科目 | 学校における実習 | 単位総数 |
|------|------|----------|------|
| 26単位 | 10単位 | 10単位 | 46単位 |

注1) 共通科目と選択科目には、教科教育領域の単位がそれぞれ2単位含まれており、主免の授業力向上をめざします。

注2) 現職教員選抜を受験し、「学校における実習科目」の免除を申請する場合は、入学審査により一部免除されることがあります。

○ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。

○ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を取ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

○ 「1種免許状」を取得している場合（＊）は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。

2025年度より、特別支援学校教諭専修免許状（5領域：視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者）の取得が可能となります。

* 2025年度創設の教員免許状を持たない方を対象とした3年制プログラム（学校教員養成特別プログラムおよび養護教諭養成特別プログラム）は、入学前の資格や単位取得状況により専修免許状取得までの科目履修計画は個別指導を行います。

5. カリキュラムの特色と構成

専門職学位課程(教職大学院)では、理論と実践の高度な架橋・往還・融合を通じて、教職生活全体を通じて継続的に職能発達する高度専門職業人としての教員の育成を目指しています。アクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を学ぶことができるよう学校現場や教育行政との密接な連携のもと、デマンドサイドのニーズに立脚し、研究成果を学校現場に直接還元できる特色あるカリキュラムを編成しています。

◆ 岡山大学教職大学院の学びの特色

① 共に学び、共に高める

特徴の一つとして、コース制を採用するのはなく、職能発達段階の異なる学部新卒院生と現職教員院生とが同じ授業を履修し、「共に学ぶ」ということがあります。

校種や教科、これまでの経験を異にする学部新卒院生や現職教員院生が「共に学ぶ」ことで、1つの教育事象をさまざまな視点から交流し、異なる見方や考え方を共有しながら、課題の解決に向け展開されている実践に参画していくための資質や能力を、「共に高める」ことに寄与しています。こうして築いた学び合う関係性は、修了後の教職キャリアを支える貴重な人的ネットワークになっていきます。

② 学校の教育活動を一体的に捉える

学校の教育実践は、その学校の児童・生徒の実態をもとに、子供達をどのように育てたいのかという方向性、学校の教育目標を見据えて行われます。“その学校の児童・生徒にとって”意味のある教育実践を創り出していく必要があるのです。そこで、自分の専門教科に対する理解、指導力の拡充・深化だけではなく、他教科等を理解したり、学校全体の動きを見取れる視野を養うことで、学校の教育活動を一体的・総合的にとらえ、リーダーとしての高度実践的指導力を養います。

③ 教育実践のプロフェッショナルとして、自らの実践の基盤となる理論(実践知)を構築する

学校現場で経験年数を積めば、それに比例して、教師として指導力も自動的に積みあがっていくのでしょうか?

教職大学院での学びは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践をおこない、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。いわば、単なる経験主義から脱却し、「経験から学ぶ力」の育成を図り今後の教職人生を通じて「学び続ける教師」の根幹を育みます。これは新卒院生でも現職院生でも共通して必要な力です。

④ 充実した専任教員と支援体制

全10教科と、特別支援教育、養護教育、教育行政・マネジメントと併せて、専門領域を深めるための科目群および指導体制を充実させています。

研究者教員、実務家教員によるオムニバス形式やチームティーチングの授業、複数教員によるゼミ指導、さらには、実習校や現任校、教育委員会、メンター等と協働した指導体制を取り入れることにより、本質的かつ多面的・多角的な学びを支援します。

◆ カリキュラムの構成

教職大学院では、「共通科目」「選択科目」「学校における実習」を開設しています。すべての学生が履修する「共通科目」では、今日の教育課題や教育事象について仕組みや成り立ちを学び、「選択科目」では、キャリア段階に応じた職能発達を促し、なおかつ学校現場の今日的課題に対応できる実践的理論を修得します。そして「学校における実習」において教育現場の課題に向き合い、職能成長の段階等に応じて、『課題の発見→解決→探究、問題の分析→解決策の提案』といった取り組みを「教育実践研究」で段階的に学修できるように、カリキュラムを構成しています。

6. 教職大学院で過ごす2年間

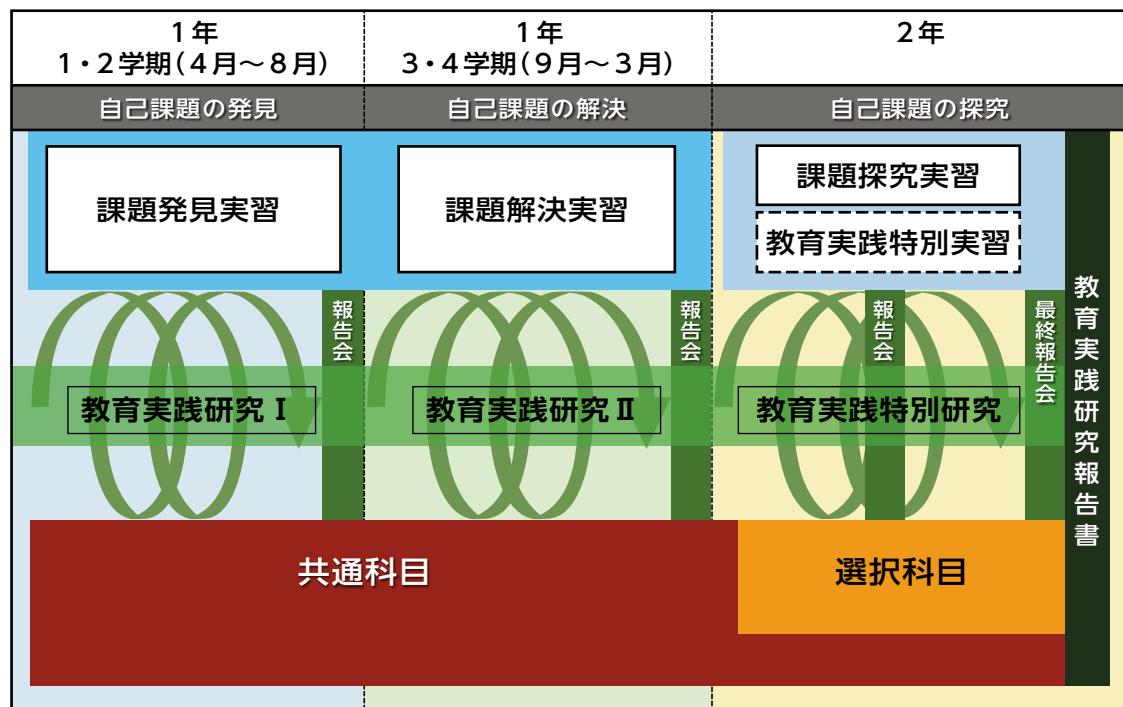
本教職大学院の学びでは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践を行い、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。

● 学部新卒学生の学び

「初任期リーダー」として高度な授業力の育成を目指す

学部新卒院生は、学習指導や生徒指導などに関わる自己課題を発見・分析した上で、その解決に向けての実践研究を深めます。したがって、選択科目は、教育課程・授業力育成に関する科目群の科目を中心に履修します。

● 学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク



主に学習指導や学級経営に関する問題解決に資する教育実践力の高度化

◆ 修了生に聞きました！ —— 竹元 一平（高等学校・数学、他大学教育学部出身）

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 教職大学院での学びを通して、教育に関する物事を多面的に捉えられるようになりました。学部生時代には学べなかった専門的かつ実践的な知識を深めることができただけでなく、現職教員学生や異なる教科・校種の学部新卒学生との意見交換を通じて、自分にはなかった考え方方に気付く機会が増えました。この経験により、「このようにも考えられないだろうか？」といった多面的な視点を持ち、物事に柔軟に向き合えるようになりました。こうした学びを、現場での実践に活かしていきたいと考えています。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 教職大学院の2年間は、教員として自信を持って現場に出られる力を養う貴重な時間です。私自身、学部生時代に現場に出ることへの不安を感じていました。しかし、教職大学院での学びを通して、「自分がどのような教員になりたいか」を具体的に考えられるようになりました。自信を持つようになりました。経験を積むだけではなく、理論を取り入れながら学びを深めることで、実践力を高めることができます。この2年間はとても充実したものになるはずです。ぜひ、教職大学院で「深い学び」を追究してみてください。

● 現職教員学生の学び

これからの未来を見据えた学校づくりを牽引する「学校リーダー」

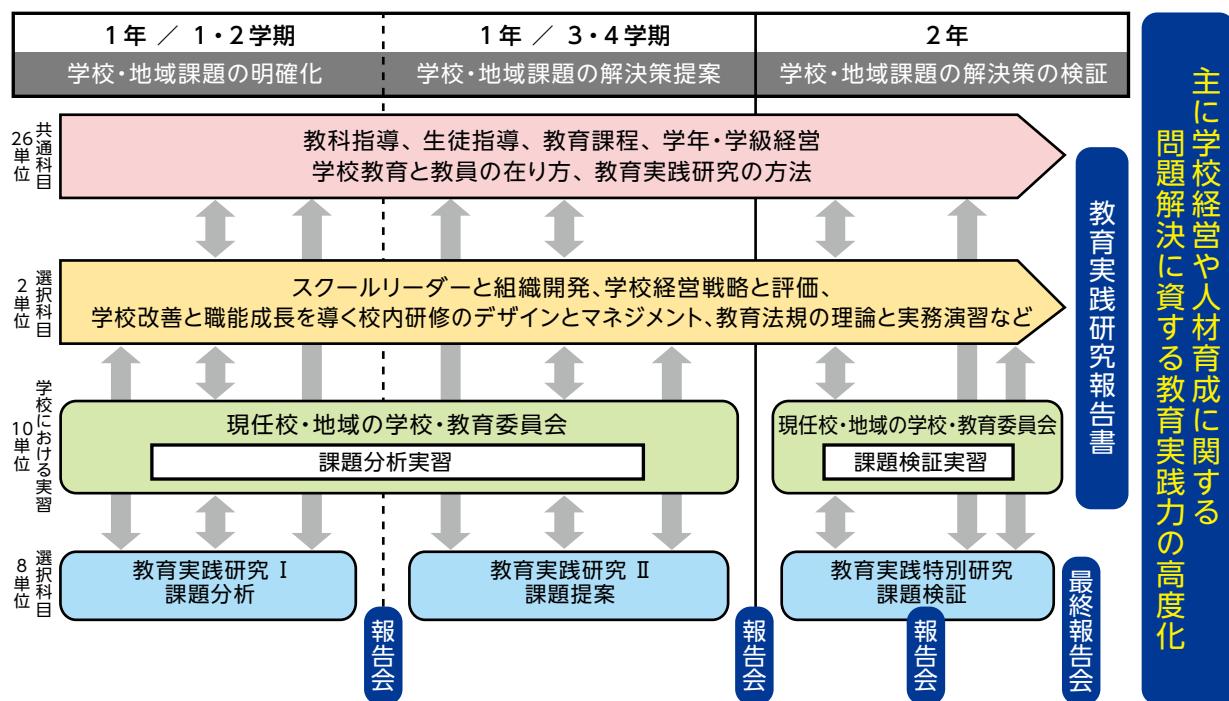
教職員集団をリードし学校改革を推進する「ミドルリーダー」を目指して

教職大学院では、学校現場の日常から少し離れた俯瞰的な視点に立ち、現任校や地域全体の教育改革という視座から、改めて学校・地域の課題を掘り起こして精選・分析し、その解決に向けて、学校や地域全体を巻き込んで実践研究を行います。

そのためには、「学校リーダー」として、戦略的なビジョンの創造・共有を舵取りし、質の高い教育の開発に向けて学習コミュニティを構築し、学校改革や地域教育の改革を推進する力も必要です。また、「ミドルリーダー」として、教科教育の指導力向上は勿論のこと、学校全体の動きを視野に入れ、教職員や保護者、地域等との協働を促すファシリテーターーやコーディネーターとしての力も必要です。

そこで、選択科目では、「学校リーダー」は「学校経営戦略と評価」「教育法規の理論と実務演習」などを中心に、「ミドルリーダー」は教科経営や教師の職能成長、校内研修のマネジメントなどに関わる科目を中心に学修していきます。

● 現職教員学生「学校リーダー」のコースワーク



「学校経営戦略と評価」：学生の体験記

「学校経営に関する知識が着実に身につき、この授業を通して『学校』そのものに対するとらえ方が変わりました。例えば、SWOT分析による学校の強み・弱みの探究、カリキュラムマネジメントに基づく学校のグランドデザインの設計など、学校全体の改善を目指す上で必要不可欠な視点を得ることができたと、思います。」

「教材開発と授業デザイン」：学生の体験記

「学部新卒と現職、異教科・異校種の院生がグループを組み、模擬授業を作成する授業でした。こうした混成のグループで課題を達成できるのか最初は不安でしたが、学校教育目標や研究テーマを軸として定めることで、共通の視点に立った議論ができました。各自の専門性を活かして、よりよい授業をつくりあげる、貴重な経験をすることができました。」

「教育実践研究」：学生の体験記

「学部卒院生と一緒に、研究に関する議論や実践の省察を行っています。院生各自のテーマや対象・領域は様々ですが、研究のアプローチや方法論、内容の核心的な部分での共通性を見出せることがあり、そこから新たな知識や気づきが得られるため、とても刺激的で面白いなと感じています。」

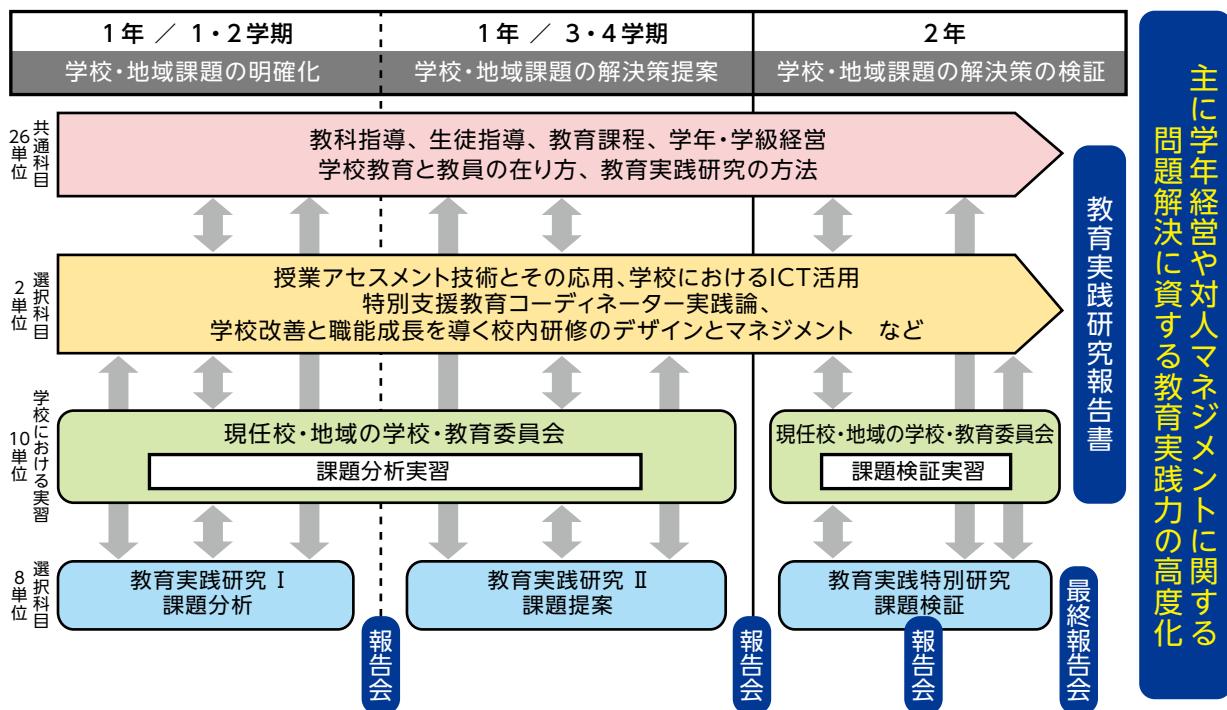
「国語に関しては、講義を聴き自分が思っていたことを、ゼミで『国語の視点で捉えるとこういうことかな』と自分で言語化して先生にみて頂いたりする中で教科の理解が深まったところがあると思います。」

実習：学生の体験記

「国語科でアクティブ・ラーニングを行うための示唆を得るため、教育関係機関で開催される講座の見学・聴講や、指導主事へのインタビューを行いました。現任校では、先生方と一緒に授業づくりや、研修会を担当しました。多くの方から支援と示唆をいただき、研究テーマと課題に取り組めています。」

「違う学年、教科、分掌のこと等、狭い視点で判断し切り捨てていたことが多かった自分に気づき、実習では先生方と話をしたり、色々なことを関連付けて捉えてみようということを意識してやっています。」

● 現職教員学生「ミドルリーダー」のコースワーク



◆修了生に聞きました！—— 河本 章宏（早島町立早島小学校）※令和6年度時点

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 「人づくりは町づくり」といった、視点で学校教育を捉える意識と態度です。教職大学院での2年間は、理論と実践を往還させながら学校の諸課題を解決していくといった、優れた教育研究のあり方を学べる貴重な日々でした。そこで取り組んだ実践は、学校だけでなく、目の前の子どもや地域の実態、ニーズを踏まえた特色ある教育課程の推進そのものであり、それらを通して、自分たちが住んでいる町(学校や地域)に対する愛着と誇りを、子どもたちに育んでいかなければならぬことに改めて気付かされました。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 2年間の学びほぐしによって、これまでの教師としての考え方や価値観を一から問いかね直すことができました。そうした成長は、日々の講義やゼミを通して最新の知見や多くの理論、教育的技術を惜しみなくご指導くださる諸先生方、一緒になって課題に向き合い、忌憚のない意見をくれる学部新卒学生、現職教員学生といった素晴らしい仲間に出会えたからです。教職大学院の一番の魅力はそうした人々に出会えることです！ 出会いは一生の財産！ 入学をお勧めします！

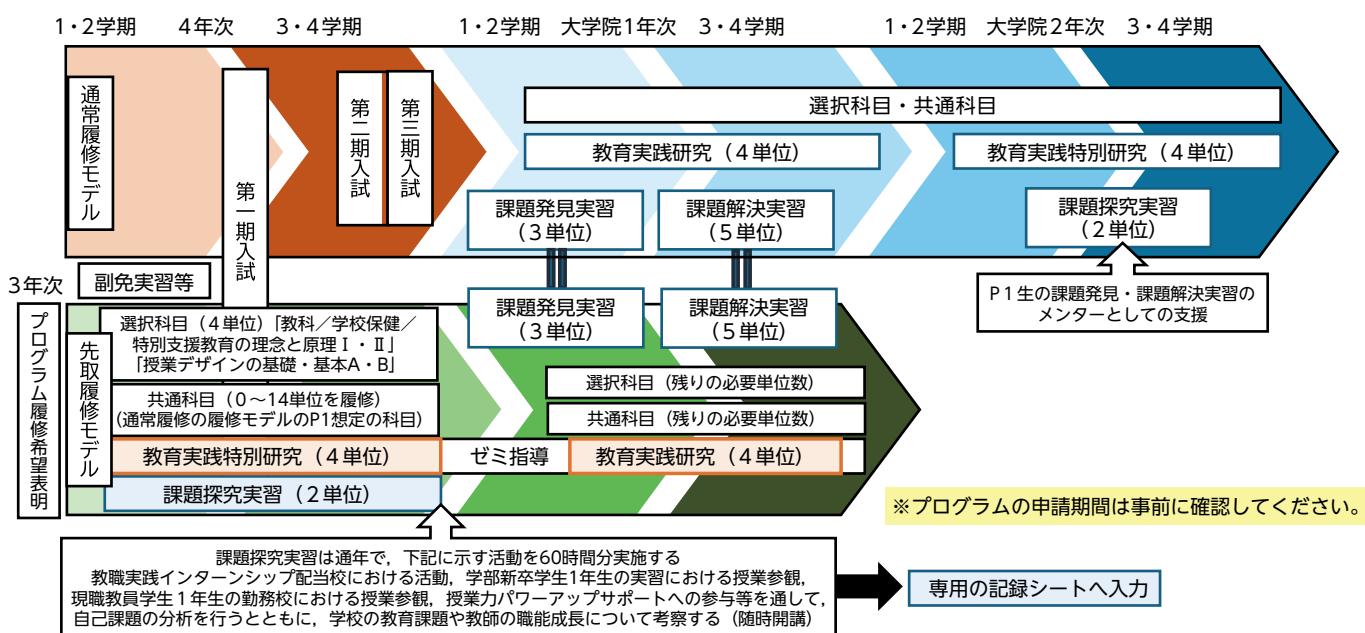
7. 現代のニーズに応えるプログラムを準備

(1) 先取履修を活用した在学年限短縮プログラム(岡山大学教育学部4年次生用)

教職大学院においては、単位修得時における大学院入学資格の有無に関わらず、教職大学院入学前に大学院において修得した単位数等を勘案して在学年限を短縮することが可能となりました(文部科学省より「専門職大学院設置基準の一部を改正する省令」令和5年6月15日公布)。

岡山大学教育学部4年次生の内部進学を視野に入れている方にむけた、学部卒業後1年での修了を可能にするプログラムです。学部3年次に申請する必要があります。

● 先取履修を活用した在学年限短縮プログラムのコースワーク



(2) 教員免許状を持たない方を対象とした3年制(*)の学校教員養成特別プログラム・養護教諭養成特別プログラム

学校教員養成特別プログラムは、学校や地域が抱える教育課題を発見し、分析、改善するリーダー的な教員となる資質・能力の育成と高度化を目指しています。大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)を修了することにより、小学校教諭及び中学校教諭の専修免許状を取得することが可能となります。

養護教諭養成特別プログラムは、学校保健経営の専門家として学校・地域のリーダーとなる養護教諭養成の高度化を目的としています。大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)を修了することにより、養護教諭専修免許状を取得することが可能となります。

出願の条件として事前相談を受ける必要があります。

*入学前に取得している資格や修得している科目等の状況によって、3年を超えた就学が必要な場合があります。

8. 最終成果報告書の研究テーマ例

● 学部新卒学生

教科教育領域を中心にして、生徒指導や学級経営、特別支援教育など幅広いテーマを追究し、教育の専門家としての知恵を深めます。

- ・小学校社会科における子どもの認識形成上の困難とその克服 ー概念的知識の成長をめざす授業ユニバーサルデザインの活用ー
- ・問題発見能力の育成と自己有用感の向上をめざす小学校社会科授業 ーシミュレーション教材を活用した実践を通してー
- ・小学校高学年外国語(英語)科において、異文化間能力を高めるための授業のあり方
- ・小学校英語教育における「書くこと」の効果的な指導法の研究 ーループリックを活用した授業実践ー
- ・「地産地消」からESDについて考える小学校家庭科における領域横断的な授業構想
- ・小学校算数科における練り上げの指導法に関する実践的研究 一小学校6年生「拡大図と縮図」単元においてー
- ・レジリエンスを育む教育実践 ー養護教諭の働きかけに着目してー
- ・共に学び合う体育学習の在り方 ー跳び箱運動における生徒のつながりに着目してー
- ・技術分野「B生物育成の技術」内容における実践的・体験的な活動を重視した教材開発及び授業実践の考察ー技術分野における持続可能な社会の構築に向けた授業実践ー
- ・納得から合意を生み出す中学校社会科の授業モデル開発
- ・海洋酸性化を取り扱う中学理科の授業開発
- ・菌類きのこが拓く理科の可能性
- ・健康行動を選択する生徒を育む養護教諭の取り組みを目指して
- ・保健教育における養護教諭の参画について
- ・中学校国語科における思考力を育てる文法教育
- ・歴史的背景に着目させて読解を深める古文の授業実践
- ・高等学校における拡張的学習の理論に基づく数学授業の実践的研究
- ・社会的オープンエンドな問題を用いた授業における社会数学的価値観に関する研究 ー数学学習における批判的思考の明確化を目指してー
- ・数学の有用性を感じ、自己有能感を抱き、数学を学ぶ意義を感じる授業構成 ー例を用いた授業ー
- ・高等学校数学科における「わかる学力」を向上させる授業デザイン ー高等学校数学科A図形と計量 協同的探究学習を用いてー
- ・高等学校公民科「公共」における「批判的思想力」の育成
- ・高等学校数学科における実感を伴う数学学習のための授業デザイン
- ・数学教育におけるICT活用による生徒の統合的・発展的に考える力の育成に関する理論的・実践的研究

● 現職教員学生

小・中・高校、特別支援学校、また、教諭や養護教諭、管理職など、学校現場のさまざまな立場に立つ者が、学校の組織づくりやマネジメントを中心にして、学校づくりの基礎・基本と実践を軸にした省察を行いつつ、新しい基礎理論の構築を目指します。

- ・児童の「考えを互いに批評し合い、高め合う力」の育成 ～組織的な国語科の授業づくりを通して～
- ・軽度知的障害のある生徒に対する自立活動の指導における「個別取り出し型」の指導に関する研究 ～知的障害高等支援学校での実践を通して～
- ・学ぶ意味を実感できる教科横断的な視点による美術授業のデザインとその実践 ーサークル活動等の校外研修を契機とした教員集団の協働を通してー
- ・問い合わせを積み重ねて概念的理解へ至る授業づくりー高等学校歴史領域での実践ー
- ・中学校における生徒指導の機能を活かした授業づくり研究 ー学習集団づくりを通してー
- ・学校における感染症対策 ー養護教諭の行う校内研修を中心にー
- ・学校課題解決のための組織マネジメント ー内的・外的資源を生かし、好循環を生み出すためにー



①：教職大学院のある教育学部の遠景 ②～⑧：教職大学院の院生室

教職大学院の院生室は全部で6ヶ所あり、学年間の交流や新卒院生と現職院生の交流が深まるように院生室の使用方法が工夫されています。



中間報告会でのポスター発表。1年次と2年次で各2回の報告会を行います。院生たちは自分たちの実習校での実践内容を生かした研究成果を発表します。



通常の授業や合同省察会の中でも議論をするいろいろな場面が用意されています。互いの考えを深め合う貴重な機会となります。

9. 教職大学院進学の利点

● 学部新卒学生

◆ 名簿登載期間の2年延長

学部4年次に教員採用試験に合格した人が教職大学院に進学する場合、採用候補者名簿への登載期間が2年間延長される自治体もあります（例：岡山県、岡山市）。先取履修を活用した在学年限短縮プログラムは1年延長されます。これは学部卒業後すぐに教員にならずに教職大学院で学ぶことの意義が評価されているからです。

◆ 教員採用試験の一部試験免除・特別選考/初任者研修の一部免除

自治体によっては、教員採用試験において教職大学院生のみを対象とする選抜をおこなっているところや、教職大学院修了者への初任者研修が一部免除されるところもあります。

◆ 教員採用試験の対策

教員採用試験は教職大学院生としての価値観を發揮する重要な関門なので、教員が特に種々の指導をおこなっています。

◆ 日本学生支援機構の奨学金返還免除

正規教員になる方には、教職大学院在籍時に貸与を受けた日本学生支援機構の第一種奨学金返還免除制度（教員免除）があります。

● 現職教員学生

◆ 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制

岡山大学教職大学院では、現職教員を対象とする研修講座やセミナー等での学修を教職大学院の授業科目の履修とみなして単位を付与する制度を設けています。これにより、教職大学院を1年で修了することも可能となります。

● 学部新卒学生+現職教員学生

◆ 博士課程への進学

教職大学院を修了した後に、博士課程に進学することができます。

◆ 修了後も続くネットワーク

教職大学院にはさまざまな学修歴・教職経験の学生が、また、校長や教育委員会等での経験を有する実務家教員、教科教育や学校に関する専門的知見を有する研究者教員がいます。授業や院生室での「学び合い」や「関わり合い」を通して、修了後にも続く貴重なネットワークがつくれられます。

◆ 「学び続ける教師」の根幹

教師には、教職生活を通じて自らの資質能力の向上に取り組むセルフ・マネジメント力が必要です。教職大学院での学びを通して、目の前にある課題にとどまらず学校の教育活動を総合的に捉えたときに浮かび上がる本質的な課題を発見し、その解決に取り組むための資質能力を身につけることができます。

10. 修了生の進路状況（新卒院生のみ）

| (入学年度) | 小学校 | 中学校 | 高校 | 中学・高校 | 特別支援 | その他 |
|---------|-----|-----|----|-------|------|-----|
| 令和 2 年度 | 11 | 8 | 10 | 2 | 1 | 0 |
| 令和 3 年度 | 10 | 1 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 令和 4 年度 | 6 | 9 | 4 | 1 | 0 | 2 |

修士課程 教育科学専攻

教育科学専攻の概要

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/>

↑ 詳しくはここをクリック



1. 教育上の理念、目的

修士課程は、教育に関する様々な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、そこに見いだされる課題を実証的・体系的に教授研究し、教育科学の発展に資するとともに、豊かな学識と高度な課題解決能力を備えた人材を養成することを目的としています。

2. 養成する人材像と課題解決の資質能力

修士課程には、二つのプログラムがあります。それぞれの学位プログラムでは、次のような人材を養成します。

【教育学学位プログラム】

○養成する人材像

教育ならびに関連諸領域に関する深い専門的知識とGIGAスクールやICT環境に関する汎用的な知識を持ち、教育に関する高度な知識と教育実践力をもとに、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、対応可能な解決案を立案したり新たな価値創造のために積極的に行動するなど、教育専門力を活かして国際的に活躍する先駆者を養成します。

【教育データサイエンス学位プログラム】

○養成する人材像

教育とデータサイエンス、ならびに関連諸領域に関する深い専門知識をもとに、高度な課題解決能力とトランスファラブルな力を用いて、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、データサイエンスをベースにした最適解や新たな価値創造に係る有益な知の創出をするとともに、専門的な教育データサイエンス力を活かして社会構造全体を俯瞰し、デジタル社会を積極的に牽引できる人材を養成します。

3. 修了要件とその内訳

修士課程の修了要件単位総数は次のとおりで、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

教育学学位プログラム

| 研究科共通科目 | 大学院共通科目 | プログラム専門科目 | | 大学院共通科目 (課題研究) | 計 |
|---------|---------|-------------|-------------|-------------------|------|
| | | 課題解決型 科目 | 講義・演習 科目 | | |
| 1単位 | 3単位 | 8単位 | 18単位 | 4単位 | 34単位 |

教育データサイエンス学位プログラム

| 研究科共通科目 | 大学院共通科目 | プログラム専門科目 | | 大学院共通科目 (課題研究) | 計 |
|---------|---------|-----------|------------------|-------------------|------|
| | | 教育専門科目 | 教育データ サイエンス科目 | | |
| 1単位 | 3単位 | 13単位 | 17単位 | 4単位 | 38単位 |

注) 大学院設置基準第14条を適用する現職教員等における授業科目（課題研究を除く）の履修方法については、研究科共通科目、大学院共通科目及びプログラム専門科目の科目区分にかかわらず、次の単位を履修することとします。

- ・教育学学位プログラム：30単位
- ・教育データサイエンス学位プログラム：34単位

○ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。

○ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を採ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- 現在、1種免許状を所有していれば、必要な単位を修得することで、専修免許状を取得することもできます。
ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できません。基礎免許のみ専修免許状を取得できます。
- 学部の授業を科目等履修生として履修することで、新規に免許を取得することも可能です。

5. 教育課程及び、カリキュラムの特色と構成

◆ 教育課程の特色

修士課程(教育科学専攻)は、学校教育以外でも教育が広く人と社会を支えていることを重視し、教育の新しい価値を提供し、世の中を支える教育科学の可能性を追究することを目指し、2つの学位プログラムで構成されています。「教育学学位プログラム」は、修士論文の研究とプロジェクト基盤学修(Project-Based Learning: PBL)を二つの柱として学修できるよう構成されています。「教育データサイエンス学位プログラム」は、人間、社会、文化に関わる教育データサイエンスを学修しながら、修士論文研究へと向かうよう構成されています。

◆ 学位プログラムのカリキュラム構造

2年間の学修・研究の流れ

教育学学位プログラムと教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラムをそれぞれ図1と図2に示します。

○教育学学位プログラムのカリキュラム構造

2年間の学修・研究の流れ

授業は、図1のように研究科共通科目、大学院共通科目、プログラム専門科目(課題解決型科目)、プログラム専門科目(講義・演習科目)から構成されています。

2年間の学修では、教育科学PBLと修士論文研究が二本柱になっています。PBLは専門の異なる大学院生が協働でアクティブラーニングを取り組んでおり、1年次末に報告会が設定されています。修士論文研究は各自の専門性を深く探究し、正副指導教員を中心に、多様な教員の指導を受けながら2年間で行い、2年次末に審査と発表会が設定されています。

教育学学位プログラムの大きな特徴はPBL^{*}による学修です。

※ PBL(Project-Based Learning)

学問の体系性を踏まえつつも実践性を重んじたアクティブラーニングであり、学習者自身が主体的に課題を設定し、その解決に向けた実際の取組に携わりながら、社会との関わり合いの中で学問諸領域の専門的な知識・技術や未知の状況に適切に対応できる思考力・判断力・表現力等の学びに向かう力を身につける上で効果的な課題解決型学習。

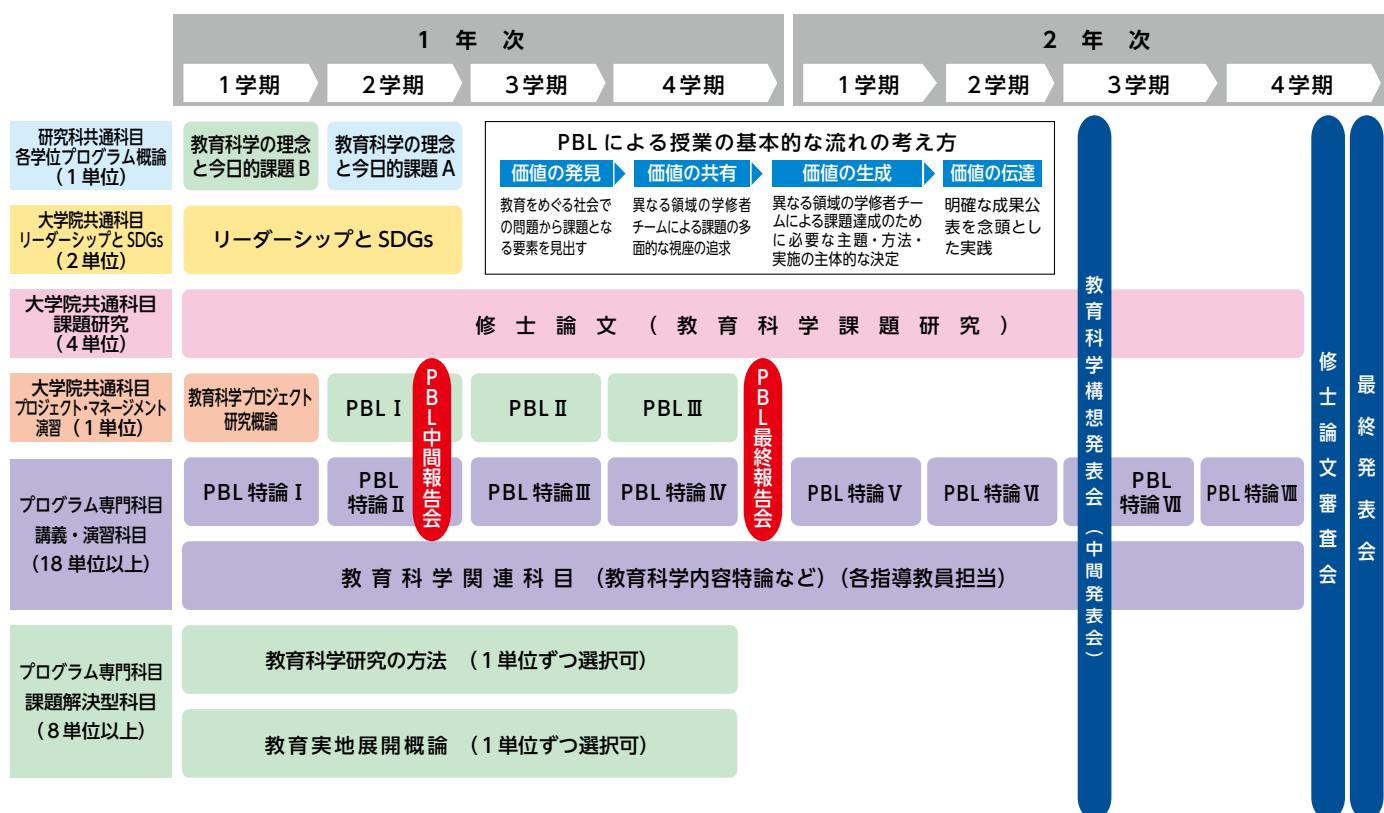
◆ PBLの目的

教育科学専攻のPBLでは、教育科学を活かして、大学院生が主体的に社会に存在する課題を見出してその解決を目指す営みを通じて学修します。ここでの「社会」は、学校内外を含む地域社会、発展途上国を含む国際社会、大学教育、企業、行政など多方面の場を想定しています。教育科学の知識や方法を修得し、実践的課題にそれらを応用して課題の解決に取り組むことができるよう以下4点を目的としています。

- ① 教育科学やチームプロジェクトに取り組むために必要な基礎的理論を修得する。
- ② 修得した理論をふまえ主体的に課題を設定して教育科学プロジェクトを遂行する力を修得する。
- ③ 今日的教育課題に関わる課題に取り組むため、最新の研究成果や社会情勢を理解する。
- ④ 学校と地域社会との連携が重要となるこれからの時代を見据え、修得した理論や手法を社会の課題解決のために応用できる。



修士課程 教育科学専攻



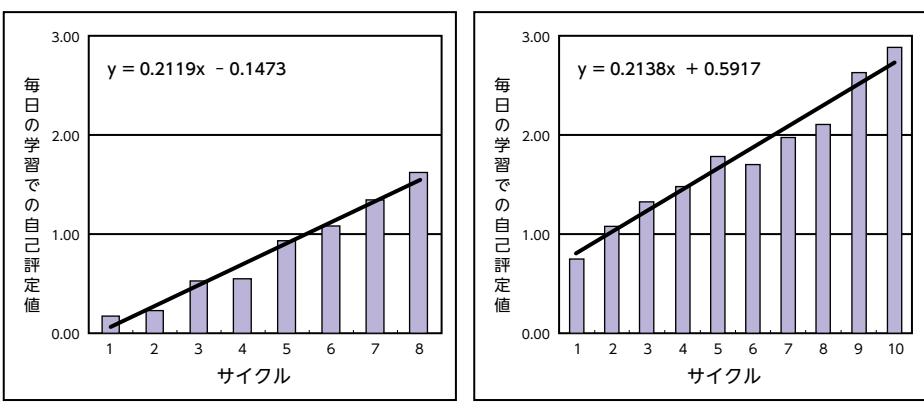
■ 図1 教育学学位プログラムのカリキュラム 2年間の学修・研究の流れ

◎教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラム構造 2年間の学修・研究の流れ

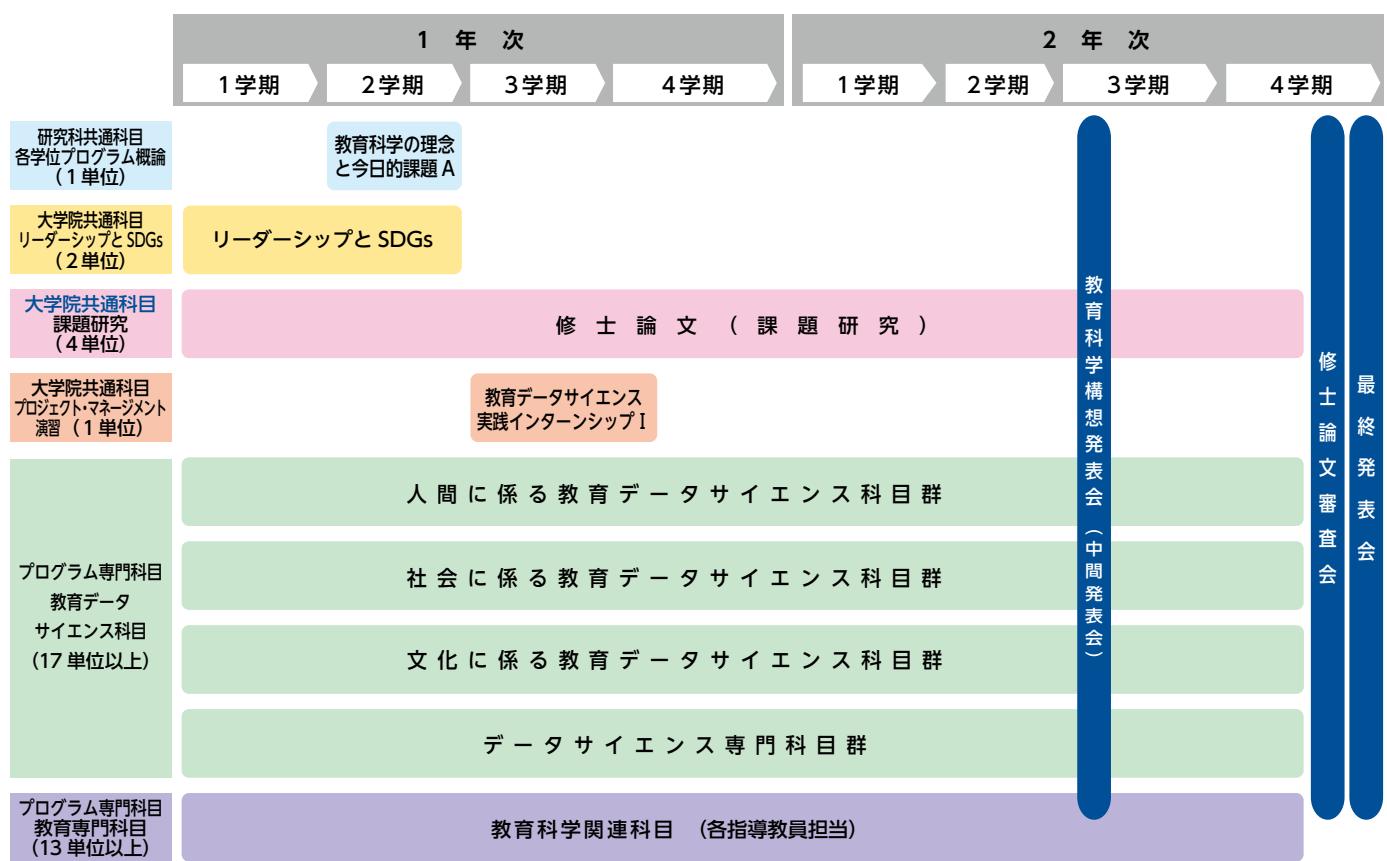
当プログラムでは、教育データサイエンス科目的学修と修士論文研究が二本柱になっています。前者では、AIの活用やプログラミング、データ解析等の科目群の他に、人・社会・文化の3分野ごとに、「教育」と「データサイエンス」の融合の具体的な実践を学びます。加えて企業などと連携する実践型の教育データサイエンス実践インターンシップに参加します。修士論文研究は、データサイエンスの知識とスキルを各自で選択した専門性に即して教育との融合について深く探究します。

※文理融合や教育とデータサイエンスの融合が注目されているのはなぜでしょう？

近年、学習者の詳細で大量の反応データ（ビッグデータ）が集約できる環境が生まれました。しかし、ビッグデータから有意義な知見を見い出すためには、データサイエンスの知識とスキルだけでは難しいことがわかつてきました。例えば、子どもたちは日々漢字や英単語の学習をしていますが、その成果はこれまで見えませんでした。意外に思われるかもしれません、「やればできるようになる」ことを証明する科学的根拠はなかったのです。その理由は、人間の記憶能力や発達段階、クラスや集団の影響が想像以上に大きいからです。つまり、行動データを扱うためには、「人」の特徴や本質に関する心理学の知識とスキルが必要なのです。それを踏まえ新たな技術を活用することで、現在、図3のように学習者一人ひとりの成績の上昇を可視化し、フィードバックできるようになっています。ちなみに、漢字が読めずあきらめてしまったような小学生も、図のように成績は確実に上がります。それをフィードバックすることで意欲を上げることが保証できるようになりました。見えなかった事実が見えるようになることで教育は大きく変わっていくはずです。



■ 図3 教育ビッグデータの解析で見えてきた3週間にわたる英単語学習の効果の積み重ね (1日10分の学習に対して成績が上がる様子を2名の高校生へフィードバックしたもの)



■ 図2 教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラム 2年間の学修・研究の流れ

6. 在校生へのインタビュー & 修了生の声

山田 愛莉
YAMADA Airi
2024年4月 修士課程入学



本田 桃子
HONDA Momoko
2021年4月 修士課程入学
2023年3月 修了



Q: 岡山大学大学院に入られる前は何をされていましたか？

岡山大学教育学部に在籍し、小学校教育を専門に学んでいました。また、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、中学校教諭（社会科）一種免許状を取得しました。

Q: どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

教育の可能性を拓げる多種多様な教育科学の学修・研究ができるところに魅力を感じたからです。小学校教諭を目指す者として、今日の教育課題の解決に挑みながら教育の専門性を高めること、大学院の仲間と教育の意義を追求することは自分自身の成長につながると考え、入学を決めました。

Q: PBLを受講してどうですか？

国籍も専門領域も越えた仲間とともに学び研究することで、自分の世界が広がったように思います。特に、多様な価値観をもつPBLメンバーと一緒に専門知識を有する先生方、お力添えくださる機関・企業の方々との議論は、新しい考え方を獲得したり自分の考えを深めたりするきっかけとなりました。正解がない課題に取り組んでいく不安や難しさはありますが、それ以上に仲間と協働する楽しさや充実感に溢れています。

Q: どのような研究を予定していますか？

「体験活動が子どもの自尊感情にもたらす効果」について研究を進めています。学校行事の宿泊体験に着目し、子どもの意識がどのように変わるのが、効果的な体験プログラムはどのようなものかを明らかにしたいと考えています。そのまま教育の現場で活用できる研究を目指したいと思っています。

Q: 岡山大学修了後、将来のキャリアは？

子どもたちとともに歩むような小学校教諭を目指しています。岡山大学大学院で培った力を生かして、子どもたちが「自分らしさ」を大切にして生きるためにサポートがしたいと考えています。

Q: 最後に、一言、お願いします。

岡山大学大学院での学びは自分自身の人生の糧になると信じています。この貴重な機会に感謝しながらチャレンジ精神旺盛に学び続けていきたいです。

Q: 岡山大学教育科学専攻に入られた理由（きっかけ）は何ですか？

岡山大学教育学研究科に入学する前は、岡山大学の教育学部に在籍しており、4年間教師になることを夢見て、教育に関する様々な勉強をしていました。その中で教育科学専攻を選択した理由は2つあります。一つは、学校という現場レベルのみで教育を捉えるのではなく、広い視野を持って教育という分野を知った上で教職につきたいと感じたことです。もう一つは、大学時代に専攻していた体育社会学に対して学問レベルで学びを深めてみたいと感じたことです。具体的な実践だけではなく、体育という事象を社会との関係の中で学べる場を探した結果、進学を決めました。

Q: 教育科学専攻での日々はいかがでしたか？

教育科学専攻での日々は、私にとって大変充実しており、大学時代学んできたことを改めて学び直す機会になったと感じています。高い専門知識を持つ先生方の講義や、学ぶことに対して意欲的で様々なバックグラウンドを持つ同期に囲まれながら、教育という学問について学びを深めることで、より広い視野で思考を深めることができました。そして、今まで当たり前になつていて疑問を持つことがなかった事柄についても、多角的な視点を持ってクリティカルシンキングができるようになりました。

Q: 教育科学専攻での学びは、今のお仕事に役立っていますか？

教育科学専攻の2年間を通じて学んだ物事の捉え方は現在の仕事にも大変役立っています。学校教育に対するネガティブなイメージが流布している世の中ですが、学校現場の中で様々な事象に対して疑問を持ち、学ぶ姿勢を失うことなく、改善しながら仕事に向かうことができていると感じています。もし学部卒ですぐに教員になっていたら、世の中の流れに振り回されていたかもしれません。現場の中で少し離れて物事を俯瞰的に捉えられるようになったことは、仕事をする上でも人生を豊かに過ごす上でも財産となっています。

Q: 教育科学専攻への進学を考えている方へ、一言、お願いします。

2年間の修士生活は「教育」という学問について、より深いレベルで学ぶことができる場であったと思います。今まであまり疑問や批判を持つことなく過ごしてきた学生生活でしたが、2年間を通じて、物事に対する考え方や感じ方が大きく変化しました。自分が経験してきた学校教育とはまた異なり、更に広い視野で「教育」を考える事のできる貴重な場です。ぜひ挑戦してみてはいかがですか。

7. 2024年度／PBLチームによるプロジェクト内容

1. 国際的教科横断教育チーム
「制服端材活用による防災教育とSDGs推進」
2. 岡大あそびラボ
「材料を用いた子どもの遊びの姿収集プロジェクト」
3. 性教育課題解決推進課
「潜在的なジェンダーバイアスに関する研究」
4. Brain to Body
「主体的な防災行動を育む防災教育の実践」

8. 2024年度 修士論文

第6期生の2年間にわたる教育科学の学習成果として
修士論文の要旨を右の報告書に掲載しています。
多様な専門分野が集まる教育科学専攻らしい
多様な研究に取り組んだ様子がわかります。

報告書には、
2024年度の各PBLチームによるプロジェクトの概要も掲載しています。



● PBLチームによるプロジェクトや修士論文の要旨はQRコードからご覧いただけます。

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/do/>



9. 修了生の主な進路先

● 企業

(株)ベネッセコーポレーション、ヤマハ(株)、菅公学生服(株)、NTTドコモ(株)、ルイヴィトン ジャパン(株)、(株)イングリウッド、天満屋ストア(株)、ウィル(株) 等

● 大学・研究機関

岡山理科大学、IPU環太平洋大学、ノートルダム清心女子大学
進学:岡山大学大学院、九州大学大学院、兵庫教育大学大学院
連合学校教育学研究科、広島大学大学院 等

● 教育機関(大学以外)

岡山市立吉備中学校、津山市立北陵中学校、佐用町立上津中学校、岡山県立邑久高等学校、宝塚市高司小学校、岡山県立早島支援学校、岡山市立牧石小学校、私立倉敷高等学校、あのね保育園、京都教育大学附属幼稚園 等

● 公務員

岡山県警察、岡山県庁 等

10. 修士課程 教育科学専攻への要望、期待(要望書等の抜粋)

株式会社 山陽新聞社

岡山大学大学院教育学研究科が進められている改組につきましては、社会が抱える様々な課題に教育を通じて関わることのできる高度な問題解決力を有する人材育成を目指すものと認識しております。現在、複雑化・多様化している学校教育に関する専門知識を持つだけでなく、地域社会への強い関心と様々な課題に対応できる資質と能力を有した人材は、多くの企業にとって求められる人材であるといえます。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、地域が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく地方創生の観点からも、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

公益財団法人 福武教育文化振興財団

予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、まさに地域社会や私ども公共性を有する組織・団体が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育・文化を通じた地域創生の観点からも、大変有益なものと認識しております。

つきましては、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会

カンコー教育ソリューション研究協議会は、学校とともに夢と学びを育み、学校のパートナーとして教育現場の課題解決をサポートすることを理念として事業を推進しているところです。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトは、まさに私どもが目指す事業理念と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育を通じた地域創生の観点からも、改組及び連携を早期に推進していただくよう要望いたします。

(特非) 日本放課後児童指導員協会

放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の指導員が高度な専門性を修得できるプログラムや講座等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

全国公立小中学校事務職員研究会

一定の経験年数を有する事務職員には、校長の学校経営を理解し、適切に支えていく役割が期待されることから、大学レベルの高度な研修を受ける機会が必要であると考えます。

つきましては、事務職員が教育に関する学修を主体的・自主的に進めていくことのできる教育内容を有するプログラム等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。

◆ 入試に関する情報はこちらから

https://edu.okayama-u.ac.jp/admission/graduate_school/



◆ アクセス

◆ JR

- ・岡山駅乗り換え、津山線「法界院」駅下車、徒歩10分

◆ バス(岡電バス)

- ・岡山駅運動公園口(駅西口)から
岡電バス(岡山理科大学)行に乗車、岡大西門下車
- ・岡山駅後楽園口(駅東口)から
岡電バス(御野校前・妙善寺)行又は(榎原病院前・妙善寺)行に乗車、岡大東門下車
※ 本路線は市内を廻るため時間がかかります。

